

ISSN 1894-7730

安曇野ちひろ美術館

美術館だより

No.97

2019.2.18



かわいいものが好き — いわさきちひろ展

主催：ちひろ美術館
信濃毎日新聞社

●2019年3月1日(金)～5月13日(月)

いわさきちひろは、幼い頃からかわいいものに惹かれ、その感性を持ち続けて大人になりました。それは、彼女の服や身のまわりの品々のみならず、作品にもあらわれており、読者を魅了する大きな要因となっています。本展では、ちひろの作品のなかから、いくつかの「かわいい」を選び、分析して紹介します。

小さい+小さい

『枕草子』に「なにもなにも、ちひさきものはみなうつくし」、つまり、なにもかも、小さいものは愛らしい、と清少納言は千年以上前に書いていますが、人には、本能的に大きいものよりも小さいものをかわいいと感じる傾向があるようです。ちひろが描いたものには、小さいものを組み合わせているものが少なくありません。例えば 幼い子どもと、小さなぬいぐるみは、どちらも決して大きいものではありません。それらを一緒に描くことにより、それぞれの愛おしさも、より一層見るものに伝わるようです(図1)。



図1 アヒルとクマとあかちゃん 1971年

無垢なしぐさ

なにに気ない顔の傾きや指のかたちなど、見逃してしまいそうな一瞬のしぐさにも、子どものあどけなさはあらわれます。ちひろはそれをしっかりと捉えて描いています。

手や指は、思いのほかさまざまな表情を可能にするものです。例えば、伝統的な踊りでも、手先・指の表現によって多くのことが語られます。同様に、ちひろが描く、あかちゃんが無意識に口にくわえた数本の指は、まだ幼い子どもならではの、その月齢のころにしか見られないしぐさをよく伝えています(図2)。

ちひろは、子どもの後ろ姿をいく度も描いています。そこに見られる、頭が大きくて



図3 あかちゃんの外出 1967年



図2 チューリップとあかちゃん 1971年

として存在しているということが現れています(図3)。

ねこと犬

ちひろは動物も好きで、犬やねこにも彼女の愛情が感じられます。実際に家に飼っていたこともあり、「動物を描こうと思うときは、まず犬、それも家にいる雑種の犬、つぎはねこ」と語っていたようです。絵のなかに、主役ではなくてもさりげなく登場し、つぶらな瞳で読者の心を射とめる名脇役ともいえるでしょう。

犬にはさまざまな種類が存在しますが、ちひろが描く犬はどことなくみな似ています。耳は短く、毛はあまり長くはありません。本人が語った雑種なのでしょうか。いずれも成犬より子犬で、子どもたちを見守り、一緒に遊んでいる仲間のようなようです(図4)。



図4 小犬と少年 1968年

ねこはどうでしょうか。こちら、ちひろにとっては身近な動物だったと想像されますが、写実的というよりは、ねこらしい要素をおさえつつも、足が短かったり目が丸かったりと、フォルムを単純化して描いていることが多いようです。小さい描写での、細かい描き込みは難しいと思われそうですが、それでも十分に存在感はあり、画面にリズムカルなにぎわいが生れるから不思議です(図5)。

丸く、まだどこか、バランスが悪いさまは、彼らが保護されるべき存在であることを思わせると同時に、いじらしさを感じさせます。そこには、幼い子どもも既に一人の人間



図5 猫と子どもたち 1969年

小さき いきものたち

犬とねこ以外の動物を描くのはあまり得意ではなかったというちひろですが、いくつかの小さないきものは、繰り返し彼女の絵に登場し、画面にたたかて、華やかな空気を醸し出しています。

そのひとつが、蝶です。蝶は、ふわふわと飛ぶ姿や、見かける風景ののどかさとともに、「かわいい」アクセントを絵に足す役割を果たしています。羽を広げた形もリボンのようで、夢のような甘さも持ちあわせています。

あたたかくなった春の庭を飛びまわる蝶は、希望のシンボルのようにも見えます。ちひろは、そんな蝶をたびたび絵に描いています。複数の蝶を画面に散らばらせることによって、まるで花畑のような華やかさが表現されます(図6)。



図6 蝶と子どもたちの幻想 1970年

「かわいい」という概念には近年さまざまな要素が含まれ、例えば「キモかわいい」というような、気もち悪く、敬遠したくなるようなものも、かわいいと評されることがあります。しかし、ちひろが好きで描いた「かわいい」は、時代を経ても、変わることはないものが中心でした。それは、多くの読者を対象にした印刷美術の世界ならではの、彼女の感性は、ひとりの画家の嗜好を超えて、広く私たちのところに響き続けています。

(松方路子)

『企画展』 一童画運動の旗手— ねこの画家 やす たい 安 泰 展

主催：ちひろ美術館
信濃毎日新聞社
協力：安 和子

●2019年3月1日(金)～5月13日(月)

1920年代後半から童画を描き始め、童画の第二世代といわれる仲間たちのなかで中心的な役割を担ってきた安 泰 (1903～1979)。戦後も真っ先に童画の再興に取り組み、リアリズムに根差した愛らしい動物たちを、子どもの本に描き続けました。なかでもねこは、安にとって愛してやまない画題でした。

本展では、特に得意としたねこの絵本を中心に、半世紀にわたる安 泰の作品の数々を展示します。また安が中心的役割を果たした童画運動の貴重な資料も展示し、日本の戦前から戦後にかけての童画界の動向も紹介します。

童画運動の旗手として

安が童画を手がけたのは、日本美術学校で日本画を学んでいた1926年、アルバイトとして絵雑誌「コドモノクニ」に絵を描いたのがきっかけでした。大判のカラー印刷だったこの絵雑誌は、童画の文化が開く土壌となり、岡本帰一や武井武雄ら個性豊かな画家たちが筆を振っていました。安も次第に本腰を入れて童画に取り組みようになり、さまざまなスタイルを模索しながら自分の童画を追求していきました。

そうしたなかで、安は、松山文雄ら若い童画家仲間とともに、先進の画家たちによる「日本童画家協会」の童心主義的な童画とは違う、新しい童画を創出しようと、1932年に「新ニッポン童画会」を設立しました。リアリズムの立場に立って子どもの現実に即した童画を目指したこの会の精神は、生涯にわたって安の童画の基盤となりました。

1930年代は日本が戦争へと突き進んだ時代でした。1937年に日中戦争が勃発すると、本格的な戦時統制がはじまり、子どもの本も戦意高揚に利用されていきました。プロレタリア童画運動ともいえる新ニッポン童画会は危険視され、1940年には安も検挙されて半年間警察に留置されるという経験をしています。1941年、童画家たちのグループは「日本少国民文化協会」に統合され、新ニッポン童画会も消滅を余儀なくされました。太平洋戦



図1 ベリカン 絵雑誌「コドモノクニ」9巻9号(東京社)より 1930年(印刷物)



図3 『ぼくたちは子ネコ』(毎日新聞社)より 1974年

争が開戦し、戦争賛美の絵本が増えていくなかであって、動物画を得意とした安は『日本ムカシバナシ』(1942年)や『トリノエホン』(1943年、図2)などの良心的な絵本を発表しました。



図2 絵本『トリノエホン』(富士屋書店)1943年(印刷物)

1945年8月、第二次世界大戦に敗れた日本には、民主主義という新たな価値観がもたらされました。1946年、民主主義的な子どものための美術を創造しようとする画家たちによって「日本童画会」が結成されます。武井武雄や初山滋、村山知義、松山文雄等が参加、安はこの会でも委員や事務所を務め、中心的役割を担いました。多くの子どもの本が求められた戦後の時代、安自身も数多くの絵本や絵雑誌、紙芝居等を手がけながら、展覧会や研究会の開催や会報の発行などの日本童画会の活動に尽力しました。

その後も1964年には「児童出版美術家連盟(童美連)」の創立に参加し、画家の著作権擁護の運動に取り組むとともに、日本童画会の精神を引き継ごうと「童画ぐるーぷ車」をいわさきちひろや滝平二郎等と結成しました。自宅でデッサン会や童画の研究会を開くなど、後進の育成にも努めています。子どもの本の仕事に真剣に向き合い、仲間たちの中心で童画の発展のために活動しながら、その絵は常に穏やかであるところに、安の人間性が表れています。



図4 『スイッチョねこ』(フレーベル館)より 1975年

愛しいねこたち

福島で生まれ、6歳から本籍地の茨城に移った安は、子どものころには田園風景のなかで、動物や虫たちに囲まれて暮らしていました。画家を志してからは、動物の骨格や生態を知ろうと犬や鶏、小鳥などを飼って観察し、動物園に通ってはデッサンを重ねています。安の描く動物は写実に基づきながら、やさしく、くったくがありません。特に子ねこが駆け回り、じゃれ合い、丸くなって眠る姿のかわいらしさは秀逸です。

1970年ごろ、庭に野良ねこの親子が住むようになったときには、ねこをスグレ越しに観察してデッサンしたといい、この経験はその後の絵本の制作において活かされました。ねこ好きで知られる作家・大佛次郎の文による絵本『スイッチョねこ』を、安は1966年、71年、75年(図4)と3回、絵を変えて描いています。ねこを観察するほどに、現実のねこのかわいらしさの表現をさらに追及しようとした画家の熱意が伝わってきます。

自作の絵本『こねことねこが』は惜しくも未完の遺作となりましたが、この絵本のための膨大な数の子ねこのデッサンが遺されました。ねこなら見ないでも描けるまでに習練を積みながら、なお観察を怠ることなく、誠実に子どもの本に向き合い続けた画家、安 泰。今、改めて、安の目指した童画を見つめ直します。(上島史子)



図5 ねこの親子 1970年代

ちひろ美術館コレクション展 **ねこ・ねこ・ねこ**

●2019年3月1日(金)～5月13日(月)

古くから人と共に暮らし、身近な存在だったねこ。絵本や絵画のなかにもたくさん描かれてきました。本展ではコレクションのなかから、さまざまな技法やデザインで描かれた当館自慢のねこたちを紹介します。



図1 ユゼフ・ヴィルコン(ポーランド)『ブラウンさんのネコ』表紙習作1987年

ねこの表現

大の動物好きで、いろいろな動物の作品を作り出しているユゼフ・ヴィルコン。『ブラウンさんのネコ』(図1)に登場するねこは、長い尻尾や縞模様の体がパステルで描かれています。一本一本丁寧に描き込まれた線やパステルのふんわりした表現により、細くやわらかなねこの毛の手触りが感じられます。満月の夜に光る瞳、大地をつかむ爪、緊張感もただようこのねこの正体は……?

拾われてきたねこの日常を描いた、和田誠の『ねこのジジミ』(図2)。主人公のねこはニードルを使ったエッチングの簡潔な線と色鉛筆の補彩によって表現されています。ねこの成長を間近で見ていた飼い主ならではの視点により、育っていくねこのしぐさや重さの変化が伝わ



図2 和田誠『ねこのジジミ』より 1996年

てくるようです。

ほかにも、ねこが活躍する絵本や風景のなかにさりげなくねこが登場する作品も展示します。さまざまな魅力あふれるねこの作品をご覧ください。

(矢野ゆう子)

〈活動報告〉2018年10月14日(日) 谷川俊太郎によるトークと詩の朗読

共催：松川村図書館、松川村教育委員会、松川村公民館

「Life 展 みんないきてる 谷川俊太郎」関連イベントとして、谷川さんによるトークと詩の朗読が行われました。聞き手にはナナロク社の川口恵子さんをお迎えし、松川村のすずの音ホールを会場に、224名の方にご来場いただきました。飾らないおふたりの軽妙なお話に、会場は終始笑いにつつまれました。その一部をご紹介します。(宗像仁美)

ちひろの印象

川口：1973年から地方新聞に連載された連作詩『みち』は、谷川さんの詩に、ちひろさんが絵を描いたお仕事でした。誕生日が同じ12月15日で、まるまる13歳違いのおふたりですが、直接お会いになったことはありませんでした。当時どんな印象をお持ちでしたか?

谷川：あまりちひろさんと仕事をするのがなかったから、ぼくが絵本をいっしょにつくる絵描きさんと同じような存在だと思っていましたね。だけど、反体制的っていえばいいのかな、そういう印象がありました。すごく優しい絵を描いていらっしやるけれど、芯は、反戦という想いが一本通っている人だな、と。ただ、ちひろさんの絵にあるような、甘い感じで、子どもが本当にかわいくて、みたいなものを、ぼくはちょっと警戒していたんです。その当時多かった、かわいい物語絵本とは違う絵本を、ぼくはつくりたいと思っていた。コップ一個だけをテーマにした写真絵本『こっぷ』(福音館書店)みたいに、モノをテーマにして書いたりしていましたね。

川口：子どもに対する姿勢には、似ている部分があるように感じますが。

谷川：ちひろさんは絵で子どもになれる、って感じがするでしょ。ぼくは、ことばで子どもになれるんですね。



撮影：森本菜穂子

谷川：ちひろさんの描く、目が不思議なんです。イラストやコミックスでは、絵のなかの目がけっこう大事。ぼくが翻訳をしている『ピーナッツ』という、スヌーピーが出てくる漫画は、目が“点”でしかないんです。その“点”で、けっこう表情が変わってくるから、すごくおもしろいな、と思う。ちひろさんは、“点”ではなくて、黒目だけで何パターンも表情をつくる。これはすごくユニークなことですね。

絵本『なまえをつけて』について

谷川：ちひろさんの絵を見てから、詩ができましたが、子どもたちに語りかける、あるいは子どもたちに語りかけられる感じがしました。絵を見てみると、物語がうかんでくる。この絵本をつくるにあたって、顔がアップのものと、そうでないものと、最初は2パターン用意されていたんです。でも圧倒的にアップの方が、顔が強いんですね。先に絵を見な

がら、絵が主、ことばが従、という感じでつくりました。

川口：完成した本をみると、絵と詩、どちらも同じ強さで、ちひろさんはもう亡くなっているのに、描き下ろしのように感じられますね。

谷川：それは要するに、絵本として成功している、ということでしょうね(笑)。

好きな絵本

谷川：ぼくは、すごく好きなイギリスの絵本作家を understatement (控えめな表現の意) という言い方でほめたことがあるけれど、要するに、絵もことばもあまり言い過ぎない。それは、ある意味で日本的なんです。ほんのちょっとのことばで世界を感じさせる俳句は、まさにそう。だから絵本も、絵を細かく描きすぎないほうが好きですね。

川口：そういう意味では、ちひろさんの絵は本当に描きすぎない。

谷川：そうですね。和田誠さんをはじめ、ぼくが好きな絵本作家は、子どもにおもねっていませんね。

展覧会関連企画：谷川さん新作詩

本展開催にあわせ、美術館とHP上で、「展覧会をみて、あなたのなかにかんたことば」を募りました。その結果、2歳から85歳まで434名の方にご応募いただき、そのなかの10のことばとともに、谷川さんが新たな詩を発表されました。新作詩「ありがとう」といいたくなる」は、現在HPにて公開中です。ぜひご一読ください。

ちひろ美術館HP <https://chihiro.jp/newpoem/>

ひとこと ふたこと みこと

10月9日 (火)
ずっと来たかった夢がかないました。大好きなちひろさん、トットちゃん、小林先生、谷川俊太郎さん。会いたかった人に一度に会えました。うれしい。きれいなお日さまとやさしい風のなか、夫はデッキで昼寝しています。ぜいたくな時間が過ごせました。ちっちな入館証、大切に大切に持って帰ります。(京都 Y.K.)

10月16日 (火)
本当は、バスツアーで今日ここに来るはずが、定員に満たなくなりました。あまりに残念で、ひとり来てしまいました。一日ゆっくりできますね。帰りの電車を気にする自分がくやしいです。

10月25日 (木)
昔、亡き母と訪れた安曇野へまた

来ました。当時はなかった「トットちゃん広場」。トットちゃんと同じ昭和8年8月9日生まれのお母を思い出さずにはいられません。(神戸より)

10月27日 (土)
ひどいパワハラをうけて仕事を休んでいました。理解してくれる人に助けられて復職しましたが、ふっと息苦しくなることが増えました。やさしくて美しいちひろさんの絵と、はっとさせられる谷川さんのことば、心に響きました。私ももう少し頑張ってみます。

11月10日 (土)
娘の誕生祝いに、ちひろさんの絵をもらいました。それはそれは美しい、心まで美しくなりそうな絵でした。あれから32年、娘も女性といったほうがよい年齢になりま

したが、毎日絵と接し、やさしく思いやりのある子に育ってくれました。ちひろさんの絵も娘も我が家の宝物です。(静岡 友子)

【武生公会堂記念館 感想ノートより】

11月24日 (土)
「ちひろ生誕100年」の年に、ちひろさんの作品にたくさんふれることができうれしいです。ポスターにもなっている『ゆきのひのたんじょうび』の絵本、すてきですね。赤い帽子と手袋が、ちいちゃんの晴れた心を象徴的にあらわしていて、あたたかい。寒い季節なのにね。これから生家の見学に行き、そのあと京都に立ち寄り、美術館「えき」KYOTOでも「ちひろ展」を見る予定です。ちひろにはまった3連休となりそうです。(大阪 谷口)



美術館 日記

10月27日 (土) ☂ のち ☀
トットちゃん広場で恒例の運動会。鯉のぼり競争とオリジナルの電車リレーを行った。今年は、よく美術館に遊びに来てくれる近くの養護施設からも8名の子どもたちがエントリー。1歳から21歳までの計31名で競技にいどんだ。



年齢・性別・体格など関係なく、みんなの一生懸命な姿に、トットちゃんがトモ工学園で学んだ「みんな、いっしょだよ。」の心を改めて感じる一日になった。

12月5日 (水) ☁ 時々 ☂
長野県から発信する優れたプラン

ドが表彰される「信州ブランドアワード」で、安曇野ちひろ美術館が2018県知事賞を受賞、長野市での表彰式に参加した。小さな子どもたちが安心して過ごせるファーストミュージアムの取り組みや、安曇野の自然に溶け込む環境づくり、世界の絵本画家作品のコレクションなど、継続発展性と地域振興に貢献している公益性が評価された。これからの活動においても励みとなる受賞となった。

12月15日 (土) ☀
ちひろ100歳の誕生日。赤い毛糸帽の女の子にちなみ、ドレスコードの赤を身につけた来館者とお祝い。水彩絵の具のにじみでデコレーションしたケーキを前に、松川小4年生の生徒たちによるハッピーバースデーの歌と「100歳おめでとう！」の声が館内に響きわた



った子どものしあわせと平和を思う。

1月28日 (月) ☁ 時々 ☀
インドネシア・バンドン工科大学での子どもの本フェスティバルの準備のために、現地に出向いていたスタッフが帰国。会場では、ちひろを含む10名の日本の絵本画家の作品展示とともに、当館のコレクション作家である村上康成さんと出久根さんが、学生が集まってくれた子どもたちに向けて、講演とワークショップを行い、充実した国際交流の機会となった。



風

Vol.1

旬なできごとをピックアップしてお届けします



生誕100年を記念して「ちひろ美術館収蔵作品目録 いわさきちひろ」が1月に刊行されました。

現在、当館で所蔵するいわさきちひろの作品は約9550点におよびます。ちひろは生前より画家の著作権確立に努め、自らの原画を大切に手元に残していました。没後「絵をいつでも見られる場所を」という声が寄せられるなか、「人々が望むのであれば、ささやかであって人類の遺産のひとつとして位置付けたい」という思いから、遺族はちひろの全作品と著作権の一部を寄贈し、これが現ちひろ美術館のコレクションの礎となりました。2017年には、ちひろ美術館・東京が開館40周年を、安曇

野ちひろ美術館が開館20周年を迎えましたが、この間にも、出版社や編集者、ちひろの知人や関係者からの絵の返却や寄贈など折々に機会を得て、作品の収集と保存、調査研究に努めてきました。

一枚の原画が美術館に入庫して、収蔵作品として登録されるまでには、画材やサイズのほか、その絵が何のために描かれたものなのか、本や雑誌など初出の発表媒体の調査や、制作年代の特定が必要になります。絵の題名がついていなければ「作品タイトル」を決め、絵の状態を記録するための画像撮影など、基本データを揃えるための地道な作業が欠かせません。今回の作品目録の刊行は、長年

のこうした活動の集大成ともいえる取り組みであり、これを機にカットや出典不明の作品群の調査が進展したことも大きな成果でした。

「ちひろ美術館収蔵作品目録 いわさきちひろ」では、3500点の図版と作品リストで全作品を掲載しています。絵本の原画、絵雑誌や童話集、教科書、広告、初期からの素描・スケッチ、油彩画など、画業の全貌を俯瞰することができます。巻頭と各章扉では代表作を紹介し画集としての要素も楽しめます。この作品目録が、いわさきちひろや絵本をはじめとする子どものための印刷美術の研究、展覧会など広く文化活動に寄与するものとなれば幸いです。(山田実穂)

●次回展示予定 2019年5月17日(金)～7月16日(火)

〈展示室1〉信州花フェスタ2019開催記念
ちひろ・花とともに生きて



いわさきちひろ スイートピーとフリージアと少女 1963年

花と子どもの画家と称されるちひろの傍らにはいつも花がありました。花を愛で、心通わせる時間は、ちひろの創作も支えていました。本展では、「ちひろの庭」や「ちひろのアトリエ」、「ちひろの黒姫山荘」などの章に分けて、ちひろが描いた花々の作品を展示し、花に寄せた思いをさぐります。

信州花フェスタ：第36回全国都市緑化信州フェア。全国各地で開催されている花と緑の祭典で、長野県では初開催。今回、メイン会場(やまびこドーム)にてちひろの企画展開催。

〈展示室3・4〉ちひろ美術館コレクション展
列車でいこう！



西村繁男「がたごとがたごと」より 1999年

絵本画家たちは時と国を超えて、列車を作品や絵本に描いてきました。リアルに描かれたものから、想像の世界に属する不思議なものまで、その表現はさまざまです。本展では、蒸気機関車から地下鉄まで、列車のあれこれを紹介します。また、当館から一番近い電車である、トットちゃん広場の電車にも注目します。

安曇野ちひろ美術館 イベント予定

各イベントの予約・お問い合わせは、安曇野ちひろ美術館へ。TEL.0261-62-0772

詳細・最新情報はホームページからもご覧いただけます。chihiro.jp



〈春の展示関連企画〉

●うちのねこ展 on Instagram

「企画展」一童画運動の旗手— ねこの画家 ^{やす たい}安 泰 展、「ちひろ美術館コレクション展 ねこ・ねこ・ねこ」の開催にあわせ、2月22日(金)より、自慢のねこの写真をInstagramで募集します。寄せられた写真は、当館スタッフが選んだものを、安曇野ちひろ美術館Instagramアカウントでも紹介します。ふるってご応募ください。

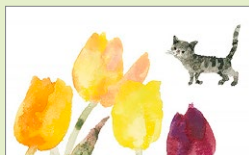
○応募方法：安曇野ちひろ美術館公式Instagramアカウント(chihiroartmuseum_azumino)をフォロー後、「#ちひろ美術館うちのねこ展」のハッシュタグをつけて、画像を投稿してください。

○応募特典：投稿画面を美術館受付でご提示いただいた方には、もれなく会期中(3/1～5/13)にお使いいただける当館絵本カフェのドリンクチケットを差し上げます。

●4月20日(土)

ねこだらけのおはなしの会

時間：11：00～
参加費：無料(入館料のみ)
申し込み：不要(参加自由)



「しょうがくしんこくこ 2年上」(光村図書)より 1967年

●ベビーカーでおでかけしよう！ ファーストミュージアムデー

ファーストミュージアムとは、生まれてはじめて訪れる美術館のこと。あかちゃん絵本のおはなしの会や、安曇野ちひろ美術館ガイドツアーなど、あかちゃんといっしょに美術館を楽しんでみませんか？

- 日時：3月16日(土)、4月18日(木)
各日10：30～11：30
- 対象：0～2歳の子どもとその保護者
- 参加費：無料(入館料のみ)
- 申し込み：要事前予約(HP、TELにて受付)



●2019年の開館情報

3月1日～12月15日(ちひろの誕生日)まで開館します。
休館日は第4水曜日(GW・8月は無休)となります。

●入館無料デー

日ごろの感謝を込めて、長野県および美術館近くの市町村にお住まいのみみなさまに、入館無料でお楽しみいただけるご優待日です。

※受付にて住所のわかるものをご提示ください。

- 3月10日(日) 松川村民特別優待デー
*村民優待券をお持ちください。ドリンク1杯サービス。
- 3月24日(日) 長野県民入館無料デー
- 6月9日(日) 池田町・生坂村民入館無料デー
- 6月16日(日) 大町市民入館無料デー
- 6月23日(日) 松本市民入館無料デー
- 11月10日(日) 安曇野市民入館無料デー
- 11月17日(日) 白馬・小谷村民入館無料デー
- 12月1日(日) 長野県民入館無料デー

●4月19日(金)開館記念日

ご来館の先着100名に、ポストカードをプレゼントします。

●3月2日(土)ちひろの水彩技法ワークショップ
にじみのキャンドルシェードをつくろう

松川村・キャンドルドリームの開催にあわせ、キャンドルのシェードを水彩絵の具のにじみでつくります。完成後、安曇野ちひろ公園にキャンドルを飾りましょう。

- 時間：15：00～16：00 ※この日は19：00まで開館延長
- 対象：4歳以上(未就学児は保護者同伴)
- 参加費：200円(入館料別)
- 定員：20名 ○申し込み：要事前予約(HP、TELにて)

●3月限定 カフェドリンク券付き入館券 1000円

3月平日限定で、絵本カフェのドリンク券付き入館券を販売いたします。(通常入館料 大人800円)

●おはなしの会

毎月第2・4土曜日11：00～
(参加自由、入館料のみ)

●ギャラリートーク

毎月第2・4土曜日14：00～ちひろ展、
14：30～企画展
(参加自由、入館料のみ)

CONTENTS 〈展示紹介〉かわいいものが好きーいわさきちひろ展…① 〈企画展〉一童画運動の旗手— ねこの画家 ^{やす たい}安 泰 展 …②/ちひろ美術館コレクション展 ねこ・ねこ・ねこ…③/〈活動報告〉谷川俊太郎によるトークと詩の朗読…④ 風/ひとことふたことみこと/美術館日記…④